

DRUG

INFORMATION



2015 No. 48

平成27年12月4日発行

1. 医薬品の採用・中止・変更について 1

(平成27年12月3日 薬事委員会結果報告)

- ①院内新規試用医薬品
- ②院内採用中止医薬品
- ③院内採用変更医薬品
- ④院内規格変更医薬品
- ⑤販売中止医薬品
- ⑥採用中止医薬品
- ⑦同効薬見直しに基づく採用中止医薬品

2. 新規採用医薬品情報 3

- 【院内新規試用医薬品】
- 【院内採用変更医薬品】
- 【院内規格変更医薬品】

岐阜大学医学部附属病院・薬剤部
医薬品情報管理室
(内線7083)

※ Drug Information は医学部・附属病院 HP の下記アドレスにて提供しています。
<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/drug-info/>

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。
di8931@gifu-u.ac.jp

①院内新規試用医薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
タケキャブ錠 10mg(ボノプラザンフマル酸塩)	酸関連疾患治療剤/P-CAB
アブラキサン点滴静注用 100mg(パクリタキセル)	抗悪性腫瘍剤
イーケプラ点滴静注 500mg(レベチラセタム)	抗てんかん剤
オノアクト点滴静注用 150mg(ランジオロール塩酸塩)	β 遮断剤
シンポニー皮下注 50mg シリンジ(ゴリムマブ)	抗リウマチ剤
タイロゲン筋注用 0.9mg(ヒトチロトロピンアルファ)	甲状腺刺激ホルモン剤
ラジカット点滴静注バッグ 30mg(エダラボン)	脳保護製剤

⇒ 平成 27 年 12 月 22 日より処方開始の予定です。

②院内採用中止医薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
ジヒデルゴット錠 1mg(ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩)	起立性低血圧・血管性頭痛用剤
ラジレス錠 150mg(アリスキレンフマル酸塩)	直接的レニン阻害剤
オルベスコ 100 μ g インヘラー112 吸入用(シクレソニド)	吸入ステロイド治療剤
スパニジン点滴静注用 100mg(グスペリムス塩酸塩)	免疫抑制剤
ピーエヌツイン-3 号輸液 1200mL(配合剤)	高カロリー輸液用製剤
注射用ビクシリン S500mg(アンピシリンナトリウム/クロキサシリンナトリウム)	複合ペニシリン系抗生物質製剤
ヘパトセーラ筋注 1000 単位/5mL(抗 HBs 人免疫グロブリン)	血漿分画製剤

⇒ 院内の在庫がなくなり次第、処方中止とします。

③院内採用変更医薬品

旧医薬品名 ⇒ 新医薬品名	薬品分類
ベネクトミン静注用 200mg ⇒ ソルダクトン静注用 200mg	抗アルドステロン剤

⇒ 旧製剤の在庫がなくなり次第、変更とします。

④規格変更医薬品

旧医薬品名 ⇒ 新医薬品名	薬品分類
ビームゲン注 0.25mL ⇒ ビームゲン注 0.5mL	ウイルスワクチン

⇒ 旧製剤の在庫がなくなり次第、変更とします。

⑤販売中止医薬品

旧医薬品名 ⇒ 新医薬品名	(外): 院外専用医薬品	薬品分類
カナマイシンドライシロップ 20%「明治」 ^(外)		アミノグリコシド系抗生物質

⇒ 院外調剤薬局の在庫状況を判断した上で中止とします。

⑥院外採用中止医薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
セディール錠 10mg(タンロスピロクエン酸塩)	セロトニン作動性抗不安剤
ツムラ当帰建中湯エキス製剤(配合剤)	漢方製剤
ビオチン散 0.2%「フソー」	抗皮膚炎ビタミン剤
カタリン K 点眼用 0.005%(ピレノキシシ)	白内障治療剤
サンテゾーン点眼液 0.1%(デキサメタゾンメタスルホ安息香酸エステルナトリウム)	眼科用副腎皮質ホルモン剤
タチオン点眼用 2%(グルタチオン)	白内障治療剤

⇒ 院外調剤薬局の在庫状況を判断した上で中止とします。

⑦同効薬見直しに基づく採用中止薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
ムコソルバン錠 15mg(アンブロキシオール塩酸塩)	去痰剤
ムコソルバン内用液 0.75%(アンブロキシオール塩酸塩)	去痰剤
チスタニン糖衣錠 100mg(エチルシステイン塩酸塩)	去痰剤
ムコダイン錠 500mg(カルボシステイン)	去痰剤
ムコダイン DS50%(カルボシステイン)	去痰剤
ムコダインシロップ 5%(カルボシステイン)	去痰剤
ビソルボン錠 4mg(ブロムヘキシシ塩酸塩)	去痰剤
ビソルボンシロップ 0.08%(ブロムヘキシシ塩酸塩)	去痰剤
メプチン吸入液 0.01%(プロカテロール塩酸塩)*	気管支拡張剤(β_2 刺激剤)
フルタイド 50 エアゾール 120 吸入用(フルチカゾンプロピオン酸エステル)*	気管支拡張剤(吸入ステロイド剤)
パルミコート吸入液 0.5mg(ブデソニド)	気管支拡張剤(吸入ステロイド剤)
キューバル 50 エアゾール(ベクロメタゾンプロピオン酸エステル)	気管支拡張剤(吸入ステロイド剤)
フルティフォーム 50 エアゾール 120 吸入用 (フルチカゾンプロピオン酸エステル、ホルモテロールフマル酸塩水和物)	気管支拡張剤(配合剤)

*： 院内・院外ともに採用中止、 記載なし：院外のみ採用中止

【院内新規試用医薬品】

(ボノプラザンフマル酸塩)

▶タケキャブ錠 10mg

Takecab 10mg/錠

〔武田〕

〔薬価〕160.1 円/錠

【効】①胃潰瘍、十二指腸潰瘍 ②逆流性食道炎
③低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ④非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制
⑤下記におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助：胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃 MALT リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎

【用】(内) ①1 回 20mg を 1 日 1 回投与する。胃潰瘍では 8 週間まで、十二指腸潰瘍では 6 週間までの投与とする。②1 回 20mg を 1 日 1 回投与する。4 週間までの投与とし、効果不十分の場合は 8 週間まで投与することができる。再発・再燃を繰り返す場合の維持療法においては、1 回 10mg を 1 日 1 回投与するが、効果不十分の場合は、1 回 20mg を 1 日 1 回投与することができる。③1 回 10mg を 1 日 1 回投与する。④1 回 10mg を 1 日 1 回投与する。⑤ボノプラザン 1 回 20mg、アモキシシリン水和物 1 回 750mg 及びクラリスロマイシン 1 回 200mg の 3 剤を同時に 1 日 2 回、7 日間投与する。クラリスロマイシンは、1 回 400mg 1 日 2 回を上限とする。《プロトンポンプインヒビター、アモキシシリン水和物及びクラリスロマイシンの 3 剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功の場合》ボノプラザン 1 回 20mg、アモキシシリン水和物 1 回 750mg 及びメトロニダゾール 1 回 250mg の 3 剤を同時に 1 日 2 回、7 日間投与する。

(パクリタキセル)

▶アブラキサン点滴静注用 100mg

〔毒特〕

Abraxane 100mg/V

〔大鵬〕

〔薬価〕58,610 円/瓶

〔貯法〕遮光

【効】①乳癌、胃癌 ②非小細胞肺癌 ③治癒切除不能な膀胱癌

【用】(注) ①A 法 ②B 法 ③C 法 〈A 法〉1 日 1 回 260mg/m² を 30 分かけて点滴静注し、少なくと

も 20 日休薬する。これを 1 コースとして、投与を繰り返す。〈B 法〉1 日 1 回 100mg/m² を 30 分かけて点滴静注し、少なくとも 6 日間休薬する。週 1 回投与を 3 週間連続し、これを 1 コースとして、投与を繰り返す。〈C 法〉《ゲムシタビンとの併用》1 日 1 回 125mg/m² を 30 分かけて点滴静注し、少なくとも 6 日間休薬する。週 1 回投与を 3 週間連続し、4 週目は休薬する。これを 1 コースとして、投与を繰り返す。

(レベチラセタム)

▶イーケプラ点滴静注 500mg

E Keppra 500mg/5mL/V

〔大塚〕

〔薬価〕1,978 円/瓶

【効】一時的に経口投与ができない患者における下記の治療に対するレベチラセタム経口製剤の代替療法：てんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む)

【用】(注) ○レベチラセタムの経口投与から本剤に切り替える場合：レベチラセタム経口投与と同じ 1 日用量及び投与回数にて、1 回量を 15 分かけて点滴静注する。

○レベチラセタムの経口投与に先立ち本剤を投与する場合：

〔成人〕1 日 1,000mg を 1 日 2 回に分け、1 回量を 15 分かけて点滴静注する。〔小児〕4 歳以上の小児には 1 日 20mg/kg を 1 日 2 回に分け、1 回量を 15 分かけて点滴静注する。体重 50kg 以上の小児では、成人と同じ用法・用量を用いること。

1 日最高投与量及び増量方法は以下のとおりとすること。

〔成人〕1 日最高投与量は 3,000mg を超えないこととし、増量は 2 週間以上の間隔をあけて 1 日用量として 1,000mg 以下ずつ行う。〔小児〕4 歳以上の小児では 1 日最高投与量は 60mg/kg を超えないこととし、増量は 2 週間以上の間隔をあけて 1 日用量として 20mg/kg 以下ずつ行う。体重 50kg 以上の小児では、成人と同じ投与量を用いること。

(ランジオロール塩酸塩)

▶オノアクト点滴静注用 150mg

〔劇〕

Onoact 150mg/V

〔小野〕

〔薬価〕17,672 円/瓶

【効】①手術時の下記の頻脈性不整脈に対する緊急処置：心房細動、心房粗動、洞性頻脈 ②手術後の循環動態監視下における下記の頻脈性不整脈に対する緊急処置：心房細動、心房粗動、洞性頻脈 ③心機能低下例における下記の頻脈性不整脈：心房細動、心房粗動

【用】(注) ①1 分間 0.125mg/kg/分で静脈内持続投与した後、0.04mg/kg/分で静脈内持続投与する。投与中は心拍数、血圧を測定し 0.01～0.04mg/kg/分の用量で調節する。②1 分間 0.06mg/kg/分で静脈内持続投与した後、0.02mg/kg/分で静脈内持続投与を開始する。5～10 分を目安に目標とする徐拍作用が得られない場合は、1 分間 0.125mg/kg/分で静脈内持続投与した後、0.04mg/kg/分で静脈内持続投与する。投与中は心拍数、血圧を測定し 0.01～0.04mg/kg/分の用量で調節する。③1 μ g/kg/分で静脈内持続投与を開始する。投与中は心拍数、血圧を測定し 1～10 μ g/kg/分の用量で調節する。

(ゴリムマブ(遺伝子組換え))

▶シンボニー皮下注 50mg シリンジ (劇)

Simponi 50mg/0.5ml/筒 [田辺三菱]

〔薬価〕126,622 円/筒

〔貯法〕遮光、禁凍結、2～8℃

【効】既存治療で効果不十分な関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)

【用】(注) 《メトトレキサートを併用する場合》50mg を 4 週に 1 回、皮下注する。患者の状態に応じて 1 回 100mg を使用することができる。《メトトレキサートを併用しない場合》100mg を 4 週に 1 回、皮下注する。

(ヒトチロトロピンアルファ(遺伝子組換え))

▶タイロゲン筋注用 0.9mg

Thyrogen 0.9mg/V [ジェンザイム]

〔薬価〕105,788 円/瓶

〔貯法〕2～8℃、遮光

【効】分化型甲状腺癌で甲状腺全摘又は準全摘術を施行された患者における放射性ヨウ素シンチグラフィと血清サイログロブリン(Tg)試験の併用又は Tg 試験単独による診断の補助、分化型甲状腺癌で甲状腺全摘又は準全摘術を施行された遠隔転移を認めない患者における残存甲状腺組織の放射性ヨウ素によるアブレーションの補助

【用】(注) 本品 1 バイアルに注射用水 1.2mL を加えて溶解し、その 1mL(0.9mg)を臀部筋肉内に 24 時間間隔で 2 回投与する。

(エダラボン)

▶ラジカット点滴静注バッグ 30mg

Radicut 30mg/100mL/袋 [田辺三菱]

〔薬価〕5,893 円/キット

【効】①脳梗塞急性期に伴う神経症候・日常生活動作障害・機能障害の改善 ②筋萎縮性側索硬化症(ALS)における機能障害の進行抑制

【用】(注) ①1 回 30mg を、30 分かけて 1 日朝夕 2 回の点滴静注を行う。発症後 24 時間以内に投与を開始し、投与期間は 14 日以内とする。②1 回 2 袋(エダラボンとして 60mg)を 60 分かけて 1 日 1 回点滴静注を行う。通常、本剤投与期と休薬期を組み合わせた 28 日間を 1 クールとし、これを繰り返す。第 1 クールは 14 日間連日投与する投与期の後 14 日間休薬し、第 2 クール以降は 14 日間のうち 10 日間投与する投与期の後 14 日間休薬する。

【院内採用変更医薬品】

(カンレノ酸カリウム)

▶ソルダクトン静注用 200mg (劇)

Soldactone 200mg/A [ファイザー]

〔薬価〕795 円/管

〔貯法〕開封後遮光

【効】経口抗アルドステロン薬の服用困難な下記症状(高アルドステロン症によると考えられる)の改善：原発性アルドステロン症、心性浮腫(うっ血性心不全)、肝性浮腫、開心術及び開腹術時における水分・電解質代謝異常

【用】(注) 1 回 100～200mg を 1 日 1～2 回、ブドウ糖注射液、生理食塩液又は注射用水 10～20mL に溶解して、ゆっくりと静注する。1 日 600mg を超えないこと。投与期間は原則として 2 週間を超えないこと。

【院内規格変更医薬品】

(沈降 B 型肝炎ワクチン)

▶ビームゲン注 0.5mL (劇)

Bimmugen 10 μ g/0.5mL/V [アステラス]

〔薬価〕2,434 円/瓶

〔貯法〕遮光、10℃以下、禁凍結

【効】①B 型肝炎の予防 ②B 型肝炎ウイルス母子感染の予防(抗 HBs 人免疫グロブリンとの併用) ③HBs 抗原陽性でかつ HBe 抗原陽性の血液による汚染事故後の B 型肝炎発症予防(抗 HBs 人免疫グロブリンとの併用)

【用】(注) ①0.5mL ずつを 4 週間隔で 2 回、更に、20～24 週を経過した後に 1 回 0.5mL を皮下又は筋注する。10 歳未満の者には、0.25mL ずつを同様の投与間隔で皮下注する。能動的 HBs 抗体が獲得されていない場合には追加注射する。②0.25mL を 1 回、生後 12 時間以内を目安に皮下注する。更に 0.25mL ずつを初回注射の 1 ヶ月後及び 3 ヶ月後の 2 回、同様の用法で注射する。能動的 HBs 抗体が獲得されていない場合には追加注射する。③0.5mL を 1 回、事故発生後 7 日以内に皮下又は筋注する。更に 0.5mL ずつを初回注射の 1 ヶ月後及び 3～6 ヶ月後の 2 回、同様の用法で注射する。10 歳未満の者には、0.25mL ずつを同様の投与間隔で皮下注する。能動的 HBs 抗体が獲得されていない場合には追加注射する。